

質 子どもの館使用料は貸スペースとしての収入だと思いが増収するためのPRや方法はないか。

答 (観光経済課)

例年は2・3件の利用、平成30年度は1件の利用であった。ホームページ等を積極的に活用する。使用方法は他の事例を研究する。

質 ハーブ館収入は予算額3090万余円に対し決算額は2095万余円である。この要因は。

答 (観光経済課)

前3年間の指定管理者の実績ベースで予算化した。が、桜まつりでの収入が600万円ほど減収となった。来園者数は例年並みであったのでハーブ館に入ってもらえるような方法を取り入れる。

質 ふるさと応援寄附金の収入に対し返礼品や事務経費で半分を占めているが考えはあるか。また、返礼品の地場産品の中で、

松田町は「足柄茶」というブランドをつたっているが、新たに「丹沢大山茶」を加えたネーミングとして伊勢原市のイメージだかどうか。

答 (定住小字化担当室)

平成27年度より実施しており、必要経費として返礼品と委託事業者への経費で、50%の費用がかかっている。地場産品を活用する中で、お茶と茶器のセット提供をしている。丹沢大山茶は包括連携の中で売り出している。

質 町民文化センター事業収入のボルダリングで5万円の収入という事だが、学校教育の中で松田の子どもたちに体験させるような考えはあるか。

答 (教育課)

学校の教育課程では授業時数が限られるので、イベント、グラウンドオーブン、産業まつり、夏フェスなどで開放している。

決算審査特別委員会報告書(抜粋)

本委員会は、8月22日及び23日に委員6名全員出席のもとに、役場4階大会議室で委員会を開催し、令和元年第3回議会定例会において付託された認定第1号「平成30年度松田町一般会計歳入歳出決算の認定」について、慎重に審査いたしましたので、次のとおり報告します。

記

1. 審査の結果

採決により、賛成全員で認定すべきものと決定しました。

2. 審査の内容

歳入については一括、歳出については各款を単位として、適切な執行がされたかを中心に審査を行いました。

歳入は、自主財源の根幹である町税が減少傾向にあるので、財源確保に引き続き取り組む必要があります。歳出は、今後松田小学校建設工事などが予定されている中で、より厳格な執行が必要となることから、次のことについて、留意されたい。

- (1) ふるさと応援寄附金に対する返礼品は、魅力的な地場産品を開発するとともに、地場産業振興を図り、歳入増を図られたい。
- (2) 委託事業については、今後十分な精査を行い、執行されたい。
- (3) 女性が輝き活躍するコンパクトシティ創生事業は、事業費が高額にもかかわらず、5年間の事業の関連性がわかりづらい。実施内容や、その効果を定期的に報告されたい。
- (4) 木質バイオマスエネルギー計画委託事業は、議会に十分な報告がなされていないので、説明責任を果たされたい。
- (5) 道路新設改良について、人口増加策などを考慮して、計画的かつ積極的な事業展開を図られたい。
- (6) 旧寄中学校校舎の利活用について、早急に計画を策定するとともに、十分な維持管理を行うこと。